

熊川宿

(福井県若狭町)

注目ポイント！

古の街道(鯖街道)の宿場町を感じる景観づくり。
地域住民による文化の継承と街道を活かした地域づくり。



来訪者数が約24,000人から約388,000人に！
(平成9年) (平成16年)



熊川宿の町並み

コラム

町並み保存により「釘1本打てない、木1本切れない」という誤解を生じ、住民の気運が減退する中、「保存」から「まちづくり」へと視点を転換することで、熊川宿のまちづくりを一気に加速させた。

住民が住み続けることに主眼を置いて、住民主体のまちづくりを進めている。



若狭熊川宿まちづくり特別委員会
会長 河合 健一氏

これまでの経緯

- 平成 6年(1994) 「熊川まちづくりマスタープラン」が策定される。
- 平成 8年(1996) 「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、民家の修理・修景活動が本格化する。
- 平成10年(1998) 「熊川宿町並み保存伝統技術研究会」が発足し、「鯖街道熊川宿デザインガイド」を作成・配布する。
- 平成12年(2000) 「てっせん踊り」が80年ぶりに復活し、「熊川宿伝統芸能保存会」が発足する。
- 平成12年(2000) 「熊川いっぷく時代村実行委員会」が発足し、来訪者と住民との交流を図るイベント「熊川いっぷく時代村」が始まる。
- 平成17年(2005) 宿場全域の景観整備が完了する。

主な取り組み

「町並み保存」から「まちづくり」へ

昭和56年、地元住民によって結成された現「若狭熊川宿まちづくり特別委員会」が中心となって、住民主体で鯖街道の宿場町の町並みを保存。町並み保存ばかりではなく、年3回の「町並み通信」の住民や全国への発信、熊川葛の蔓細工の商品化、外国との文化交流など、町並みと歴史を活かしたまちづくりを展開。



フータンとの文化交流

てっせん踊りの復活と伝統芸能の継承

平成10年、京都「一乗寺郷土芸能保存会」との交流をきっかけとして、熊川宿の伝統芸能であった「てっせん踊り」を80年ぶりに復活させた。これを契機に住民主体による「熊川宿伝統芸能保存会」が発足し、熊川宿の伝統芸能を保存・継承するとともに、宿場町の賑わいを創出。



80年ぶりに復活した「てっせん踊り」

熊川いっぷく時代村

来訪者と住民とのふれあいを目的としたイベント「熊川いっぷく時代村」では、街道を運ばれていた鯖や熊川特産の葛をはじめとした「食」を通じた交流を促進。「熊川いっぷく時代村実行委員会」が中心となって、秋の一大イベントに成長させ、伝統的な町並みと食の祭典として毎年1万人が来場。



熊川いっぷく時代村の賑わい

鯖街道熊川宿デザインガイド

平成10年、民家の修理・修景に携わる技術者で結成された「熊川宿町並み保存伝統技術研究会」は、伝統工法の調査により、修理の指針となる「鯖街道熊川宿デザインガイド」を作成し、住民に配布。平成14年には、景観にマッチした外灯を考案、設置をはじめた。



修理後の民家

問い合わせ先

若狭町教育委員会事務局
Tel : 0770 - 62 - 2711
若狭鯖街道熊川宿資料館
Tel : 0770 - 62 - 0330

<http://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/>